



ICAEW C.E.O Michael Izza 氏の 講演から考える監査人の信頼

UHY Tokyo ニュースレター / 2021年11月

2021年10月20日、21日、22日の3日間、UHYのアンニュアル・ミーティングが開催された。今年は、コロナ禍で移動に伴う隔離が義務付けられていることなどから、日本からはオンライン・ストリーミング形式で3名が参加した。

今回は、ゲストスピーカーとしてICAEWのCEO, Michael Izza氏が行った「Trust in the Professional」と題された講義を取り上げる。

データを少数巨大IT企業が占拠する中、監査人は、職業監査人としてどのように信頼を得てゆくか、データ分析を含む信頼度の向上についてがテーマである。

会議に参加した水野研究員は、監査の信頼度を上げるためには、監査人個人の誠実性だけでは不十分で、ITに関する専門的知識の習得が必要になるという話に共感した。

従来、監査人の存在価値は、財務情報のプロフェッショナル

として信頼されることに見出されてきた。しかし、ITが発展した現代、多くの情報が氾濫し、財務情報に精通するのみでは、監査人として信頼を得るには足りなくなっている。実際、ディスクロージャーに対するステークホルダーの興味は、財務情報から非財務情報へ拡大し続けており、企業の環境に対する取り組み等、社会的責任の観点からの情報ニーズは高まっている。

重要なのは、信頼できる情報に対するニーズだけが増加していくとの話は、その通りだと思った。

今日、世の中に氾濫する情報の質にはばらつきがある。情報発信のITプラットフォームが整備され、情報を発信するハードルが下がり、情報を伝達するチャンネルが多様化している。そのため、誤った情報や、何らかの意図をもって恣意的に歪められた情報が世の中にあふれるようになった。つまり、信頼できない情報の増加である。



ディスクロージャーにおいて、非財務情報の相対的な重要性が増している今日において、監査人は、世の中の大量の情報にアクセスできる機会を捉えなければならない。しかし、それは、ジャンク情報をつかんでしまうリスクと隣り合わせであることに注意しなければならない。そこで必要なのは、情報の質を判断する能力である。

そこで、現代の監査人には、ITの専門知識が必須となってくる。大量情報の流通がソーシャルメディアのような情報発信ITプラットフォームの上に成り立つ以上、その仕組みの理解なくして、情報の発信元、伝達の仕組み、態様、制約などの理解ができないからである。それらの理解なくして、その情報の品質の良否の判断はできない。

ITの専門知識について、どこまでの理解が必要かは、監査人が何を行うかによって変わってくる。

たとえば、プロフェッショナルではない一般の投資家であれば、新聞から得られるような情報だけで十分かもしれない。得た情報を生かすも殺すも自己責任だからである。

しかし、プロフェッショナルとしての監査人は、さらに一歩踏み込み、情報の品質を判断するための術を持ち合わせるべきである。監査人が、情報の評価を行う場面では、ITプラットフォームの性質を理解し、例えば、AIの発展によってフェイク動画の合成が可能となった等、どのようなフェイク情報があり得るのかの知見を持つておく必要はあるだろう。

あるいは、監査人が情報の分析を行う場面では、よりコアなITの専門知識を身に着ける必要がある。分析の実施のために、そのためのソフトウェア、Excel、あるいはCAATツールを使いこなすための知識が必要であるし、場合によっては、R言語のようなプログラミング言語の習得が役に立つだろう。また、ツールのアウトプットを正確に理解するには、統計学の理解が必要となる。データサイエンティストと名乗る人々が、統計学の理解なくして、ツールのアウトプットの数値を曲解して説明する場面をこれまで多く見てきた。監査人がデータ分析の場面で信頼されるためには、まずは統計学の正確な理解が重要であると考えられる。

ご質問やご要望がございましたらお気軽にお問い合わせください。

※なお、本稿の意見に関する部分は、筆者の個人的な見解であることをあらかじめお断りします。



コンタクト

UHY東京監査法人

水野 孝行 - 研究員

Email: takayuki.mizuno@uhy-tokyo.or.jp

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1 JR東急目黒ビル4F

Tel: +81 3 6417 0141 / Fax: +81 3 6417 0868

Website : <https://www.uhy-tokyo.or.jp/>

